

総論

満点	200点	目標得点	120点	試験時間	120分	偏差値	72
大問数	1	小問数	3				
【解答形式】		選択式	0/3問	記述式	0/3問	論述式	3/3問
【問題難易度】		C	3/3問	B	0/3問	A	0/3問
※問題難易度：C難問、B標準、A平易、を示す							

Topics

- 1：SFCは慶應の中でも小論文の比重が突出して重い。英語（or 数学）と同じように小論文でも「一定の水準に」達することが要求されている。例年の合格者を見る限りでは、英語（or 数学）で6割をクリアすれば完全な小論文勝負となる。したがって文・法・経済学部以上に十分な対策が必要である。
- 2：例年SFCは複数の課題文を処理しなければならず、今年度も同様であった。ただし、従来は解決策を自由に述べさせる形式が多かったが、ここ2年は出題者側が与えた解決策を、受験生に評価させる形になっている。今回の課題文は、介護労働者の離職率の高さに関して、課題や政党などによる解決策について論じたものであるが、そこには、総合政策の本質に立ち戻って、その観点から既にあるものについて批評させてみようという狙いがあるのではないだろうか。
- 3：問1は資料を読み込んだ上で、介護労働者の離職の課題に対する原因追究を様々な要素を取り入れて再構築し、図示したうえで、説明することが求められる。問2・問3は問1で示された課題に対して、資料の中で論じられている対策が有効かどうかを論じる問題。課題文の内容は例年よりは易化し、字数も問1～3で合計800字程度となって受験生への負担感は軽減されたが、設問自身の難易度は依然として高いといえる。しかし、SFCが重要視している問題発見・解決のフレーム（現状とあるべき姿のギャップを問題と捉え、その原因を分析し、合理的な解決策を述べる枠組み）があれば、介護に関する詳細な情報は知らなくても問題は解答できる。

こんな力が求められる！

- 1：当学部は、特に経済分野、政治分野など既存の学問分野では解決できない、もしくは捉えられない問題に対して、アプローチする「総合政策学」を学部名に掲げている。総合政策学で重要視されることは、問題発見・解決のフレームや論理性であり、問題への深い知識ではない。ゆえに、様々な事象に関して詳しく知っているかどうかよりも、論理的な原因追究と創造的な解決提案能力が求められる。
- 2：課題文の読解に関しては、上記のように問題への深い知識が絶対に必要ではない分、資料を目的に応じて読み、必要な情報をインプットした後、課題との関係性を考えることが必要である。必ずしも課題文の中にある内容を使わないといけないわけではない。課題文にある内容以外でも、論理性がある内容であれば使ってもかまわない。しかし、表やグラフは一次情報としてかなり信頼度も強いので内容に取り入れると良いだろう。
- 3：SFC小論文で最も困難な課題は、120分という制限時間内に答案を完成させることだとも言える。多くの文章を読み、800字をこの時間で書くというのは、高校生だけでなく、大人でも難しい。目的に応じて課題文を読み、必要に応じて知識を使い、論理的整合性を保ちながら解決策を導き出すことが必要である。問題発見・解決型の複数課題文型小論文を過去問・他大学も含めて解くと良いだろう。

【問1】

予想配点	100/200点	時間配分の目安	60/120分
字数	400字以内	出題形式	課題文型
設問形式	論述式		
出典	資料1 不明（おそらく出題者の作文） 資料2 平成20年度賃金構造基本統計調査・（財）介護労働安定センター 「介護労働実態調査（平成21年度）」 資料3 岡田耕一郎・岡田浩子「だから職員が辞めていく―施設介護マネジメントの失敗に学ぶ」環境新聞社2008年刊		
難易度	C ※問題難易度：C難問、B標準、A平易、を示す		

●注目すべきポイント：以下、項目ごとにお茶ゼミ論文科の予想採点基準を提示する。

原因追究力：介護労働者が辞めていく複数の原因を課題文や表、もしくは個人が持っている知識で追究できるかが問われる（30点相当）。A評価（25点）、B評価（15点）、C評価（7点）。B評価が標準。

原因再構築力：原因を追究した後で、その複数の原因を論理的に構築する力が求められる。世の中の事象は多面的であり、複合的原因で問題が生じているという（大人にとっては常識だが、高校生にとってはそうではない）ことを理解することが必要である（40点相当）。A評価（30点）、B評価（20点）、C評価（10点）。B評価が標準。

表現力：自らの考えを論理的に相手に伝える表現力だけでなく、ビジュアル化して表現する力も必要。図示させる問題は昨年は環境情報で出ているので、SFCらしい部分である（30点相当）。A評価（25点）、B評価（15点）、C評価（7点）。B評価が標準。

以下、二つの答案例を比較する。【答案例1】は合格者、【答案例2】は補欠不合格者のものである。

【答案例1】英語 60問中 40問正解（66%）

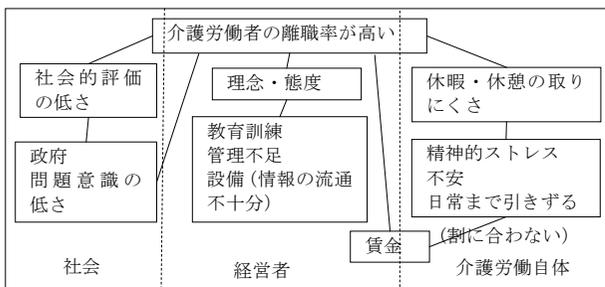
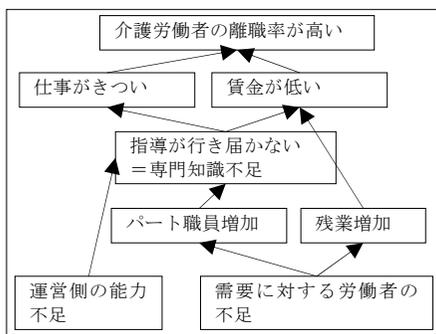


表2をみると介護労働者が仕事を選んだ理由に「働きがい」が多い。表1における離職率の高さの原因としては、働きがいがない、あるいは、それを上回る大きな障害があると予想される。表3の⑩をみると働きがいは満足という評価が多いことから、離職率の高さの原因は後者であると予想する。まず、介護労働自体がもつ原因として、表5にあるように精神的ストレスがあげられる。サービス業は日常までその不安をひきずってしまうことがストレスを深刻にしている。また休憩・休暇の取りにくさも介護労働の問題であるが、それは経営者側の努力も関わっている。経営者側の問題としては表3, 4, 6から管理不足、理念・態度の

不十分さだと分かる。表3の①と表4にある賃金の問題は介護労働者が持つ問題と経営者側の対応不足が原因だと考える。また表3の①と表5から社会的評価が低いという問題は、私達の問題意識の薄さや政府の介護労働者問題への対策の不十分さが原因だと考える。

【答案例2】英語 60問中 34問正解（56%）



離職率が高くなる根本的な問題は、労働力不足だと考える。その結果、パート職員を雇用しなければならず、残業も増加した。パート職員の人々は介護に関する専門的知識を持っている場合が多くはなく、介護施設としての最高のパフォーマンスができなくなる。このことは運営側の人々が専門知識をパート職員に伝授する機会を与えるなら防ぎうるので、運営側の能力不足といえる。

そして、介護労働者の離職率が高くなる直接的原因の「仕事がきつい」「賃金が低い」となる。パート職員の人々は専門知識を持っていないので、高齢者とうまく接するのがベストなのか、一から考えなければならぬ。また緊急事態が生じた場合の対処にも時間がかかり、長時間労働になってしまう。さらに追い討ちをかけるように、パート職員は専門知識を持たない者とみなされ、個人の希少性がないとされ、賃金も低くなってしまふ。

これが離職率が高くなる原因の流れである。

【コメント】英語の得点差は別にして、【答案例1】にあって【答案例2】に欠けているのは、原因の複合性の把握と整理であると言えよう。社会、経営者、労働者自体という三つの観点で原因が分類できるという【答案例1】の分析は合格するに十分なものである。それに比べれば【答案例2】の原因分析は単純にすぎ、しかも「需要に対する労働者の不足」という原因が「介護労働者の離職率が高い」という結果のところに来ることもできるので、原因と結果が循環しているという論理的誤謬を犯していると判定されかねない。せめて「少子高齢化による現役世代の不足」と書くべきではなかったか。両答案を採点すると、原因追究力、原因再構築力、表現力の順で、【答案例1】B+（20点）B+（25点）B+（20点）、計65点、【答案例2】B（15点）B（20点）B（15点）、計50点。

【問2】

予想配点	50/200 点	時間配分の目安	30/120 分
字数	200字以内	出題形式	課題文型
出典	平成20年度賃金構造基本統計調査・(財)介護労働安定センター 「介護労働実態調査(平成21年度)」 (問1の資料2に同じ)		
難易度	C ※問題難易度：C難問、B標準、A平易、を示す		

●**注目すべきポイント**：以下、項目ごとにお茶ゼミ論文科の予想採点基準を提示する。

批評力：資料4が示している早期離職防止や定着促進のための方策が、論理的に原因追究された結果、見出された解決策なのかどうかを判断する能力が求められる。他の問題発見・解決のフレームに対して論理的に矛盾や課題点を述べる力が必要であり、難易度は高い(20点相当)。

※上記論理構成の整合性に応じて、A評価(20点)、B評価(10点)、C評価(5点)。B評価が標準。

読解力：図を読み解かなければ、他の問題発見・解決のフレームに対して論理的に矛盾や課題点を述べることができないので、ここでは個人の知識よりも、表をどれだけ読み解けるかがポイントとなる(10点相当)。A評価(10点)、B評価(7点)、C評価(4点)。B評価が標準。

表現力：高校生として当然求められるべき正確な表現(表記も含む)ができて(20点相当)。

A評価(20点)、B評価(10点)、C評価(5点)。B評価が標準。

以下、二つの答案例を比較する。問1と同様、【答案例1】は合格者、【答案例2】は補欠不合格者のものである。

【答案例1】

「経営者・管理者と従業員が経営方針、ケア方針を共有する機会を設ける」という方策は評価できる。しかし、労働時間の希望は必ずしも通るわけではなく、賃金においてもどこまで互いに妥協するかが問題になる。また、ストレスも相談窓口だけでは対応しきれないと考える。ゆえに「働きがい」に焦点をあて、政府や社会全体の問題意識を向上させ、介護労働者の社会的評価を高めることがストレス緩和につながるかと考える。

【答案例2】

私は資料4の対策が有効であると考えます。私は図のように離職率が高くなる直接的な原因を二つあげ、その原因を専門知識不足としている。パート職員に専門知識を与え、能力を高めることで、以前より迅速な対処をすることができるし、個人個人の希少性が生じるので、賃金アップも考えられる。すなわち、専門知識を持つことで、私の挙げる直接的な原因はなくしうのだ。このような理由から能力開発を充実させるとある資料4の対策が有効だと考える。

【コメント】

この問題だけを取ってみれば、補欠不合格となった【答案例2】の方がマシな答案である。【答案例1】は全体的に資料4に述べられる方策の有効性を断片的にしか論じておらず、その結果、働きがいや政府社会全体の問題意識といった、資料4とは関係のない話になってしまっている。その点、【答案例2】は「能力開発を充実させる」ことに有効性を評価していることは明確だが、それが「迅速な対処」を可能にするとしても、どうしてそれが、自らが問1で挙げた「仕事のきつき」を解消することになるのかについては説明されていない。両答案を採点すると、**批評力、読解力、表現力**の順で、【答案例1】B(10点) B(7点) B(10点)、計27点、【答案例2】B+(15点) B+(8点) B(10点)、計33点。

【問3】

予想配点	50/200点	時間配分の目安	30/120分
字数	200字以内	出題形式	課題文型
出典	不明（おそらく出題者の作文）		
難易度	C ※問題難易度：C難問、B標準、A平易、を示す		

●**注目すべきポイント**：以下、項目ごとにお茶ゼミ論文科の予想採点基準を提示する。

読解力：文章を読み解かなければ、他の問題発見・解決のフレームに対して論理的に矛盾や課題点を述べる事ができないので、当然ながら求められるので注意。ここでは個人の知識よりも、文章をどれだけ読みとれるかがポイントとなるが、公費による賃金向上策という、読み取れて当然の内容である（10点相当）。読み取れていなければ0点。

批評力：問2同様、資料5が示している早期離職防止や定着促進のための方策が、論理的に原因追究された結果、見出された解決策なのかどうかを判断する能力が求められる。他の問題発見・解決のフレームに対して論理的に矛盾や課題点を述べる力が必要であり、難易度は高い（30点相当）。

※上記論理構成の整合性に応じて、A評価（30点）、B評価（10点）、C評価（5点）。B評価が標準。

表現力：高校生として当然求められるべき正確な表現（表記も含む）ができている（10点相当）。

A評価（12点）、B評価（8点）、C評価（5点）B評価が標準。

以下、二つの答案例を比較する。問1と同様、【答案例1】は合格者、【答案例2】は補欠不合格者のものである。

【答案例1】

A党の対策は金銭面のみの対策で介護労働力不足を解消しようとしているという点で評価できない。賃金の不十分を上回る大きな原因を取り除かなくては、介護労働力不足は解消できないので、ストレスや環境における対策をたてるべきであり、働きたいと思う理由である「働きがい」にこそ解決策を見出すべきだ。また、社会の関心を促すために、政府による介護労働についての大規模な情報開示が有効だと考える。

【答案例2】

私は資料5に反対である。たしかに賃金が低いということは、私も直接的原因に挙げているし、賃金アップは悪くはない。しかし、少子高齢化が進んでいる現在、働き手が減少していくことは明らかである。そうではなくて、どうやって最小限の人数でベストのパフォーマンスをするか考えるべきである。やはり個人個人の能力を高める案を賃金アップ案以前に考えるべきであると私は考える。こうした理由から資料5に反対である。

【コメント】

両者ともに資料5でのA党案の有効性を否定するが、両者ともにその論拠を明確には述べておらず、代案の提示に論をシフトさせている。それは「有効かどうか」という設問の要求に反している。せめて、【答案例1】は、賃金を月額4万上げたぐらいで、介護労働が「きつい」ままでは誰もこの仕事に魅力を感じない、【答案例2】は、賃金アップさせたとしても、少子高齢化が進み現役世代が減っていくなかでは、財源が確保できず、そのツケは現役世代に高負担を強いる形で帰ってきて、賃金が引きあげられても相殺されてしまうという分析をすべきである。両答案を採点すると、読解力、批評力、表現力の順で、【答案例1】B（10点）B⁻（5点）B（8点）、計23点、【答案例2】B（10点）B⁻（5点）B（8点）、計23点。問1～3を合計すると、【答案例1】が115点、【答案例2】が106点となる。両者の可否を分けたのは、英語の出来と小論文問1の原因分析力の差であったと推測できる。SFC志望者はぜひ参考にしてもらいたい。